

歎異抄(三・四回生)

延塚助教授

教行信証(信) 神戸教授  
教行信証(証・真仏土) 安富教授

教行信証(化身土)

編集後記

親鸞教学第六十四号をお届けいたしました。初めに、昨年度末をもって幡谷明先生と寺川俊昭先生が定年をお迎えになられたことをご報告いたします。両先生には、長年にわたり真宗学科・真宗学会のためにご尽力を賜り、多くの後進の指導にあたってくださいました。両先生に対し甚

大会での講演をもとに書き下ろしていただいたものです。また、饒講師、調特修員からは、最近の研究の一端を論文にして発表していただきました。

選択集 臼井教授  
選択集 安藤講師  
選択集 三明助教授  
大無量寿経 加来講師  
観無量寿経 一楽講師  
浄土論註 松井講師  
観経疏定善義 安藤講師  
一念多念文意 臼井教授  
(英文) 宗教哲学骸骨 三明助教授  
樋口講師

演習

歎異抄(三・四回生) 臼井教授  
歎異抄(三・四回生) 小野教授  
歎異抄(三・四回生) 神戸教授  
歎異抄(三・四回生) 安富教授  
歎異抄(三・四回生) 江上助教授

深の謝意を表します。尚、寺川先生は、今年度も特任教授として引き続き大学院の演習・講義をご担当くださっております。

本号には、昨年十月十五日大谷大学において勤められました曾我量深先生二十三回忌法要(鸞音忌)の記念講演の筆録を掲載することができました。伊東慧明先生、寺川俊昭先生におかれましては、ご多用の中、加筆・校正の労をお取りいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

神戸教授の論文は、昨年度の真宗学会

世間のさまざまな関係の中で生きていく限り、仏教を学ぶことが世間と離れてあるはずはない。世間の在り方を問い返し、何が真に大切であるかを探求する、それが仏教を学ぶことの具体的なすがたであろう。しかし往々にして、自分の目につく周囲のことのみを取り上げて、それに批判を加えることが起こってくる。それは一見、真面目なようではあるが、自分の立場を正当化しているにすぎないのではなからうか。仏教を学んでいるつもりでも、実際は自分の経験や考えを一步も出していないのではなからうか。

批判する立場、学びの姿勢こそが問われなければならないと思う。「常に信の初一念に立つべし」と曾我先生によって教えられてあることの大切さが、いま改めて思われる。(文責 一楽)